

〈広場の造形〉

画業50年の歩み ～夢の途中

村居正之

今、大学の教え子たちから、「先生、絵描きになりたい」とよく耳にします。彼ら彼女たちの瞳は少しの不安と大きな期待によってきらきらと輝き、眩しいくらいです。その瞳をじっと見つめていると、50年近く前の昭和46年24歳の時、改組第3回日展に「椅子と赤い布」が初入選を果たした時の記憶とあの時の感動が心に蘇ってきます。その時、生涯一度だけでも日展に入選し、いつか自分の作品が先生方と同じ会場の壁面に展示されることを夢見て描いていました。池田遙邨、池田道夫両先生に師事して半世紀、思うように描けずに苦しみ悩み、同じ夢を抱く友と語り競い励ましあい、気がつけば古稀を迎えました。

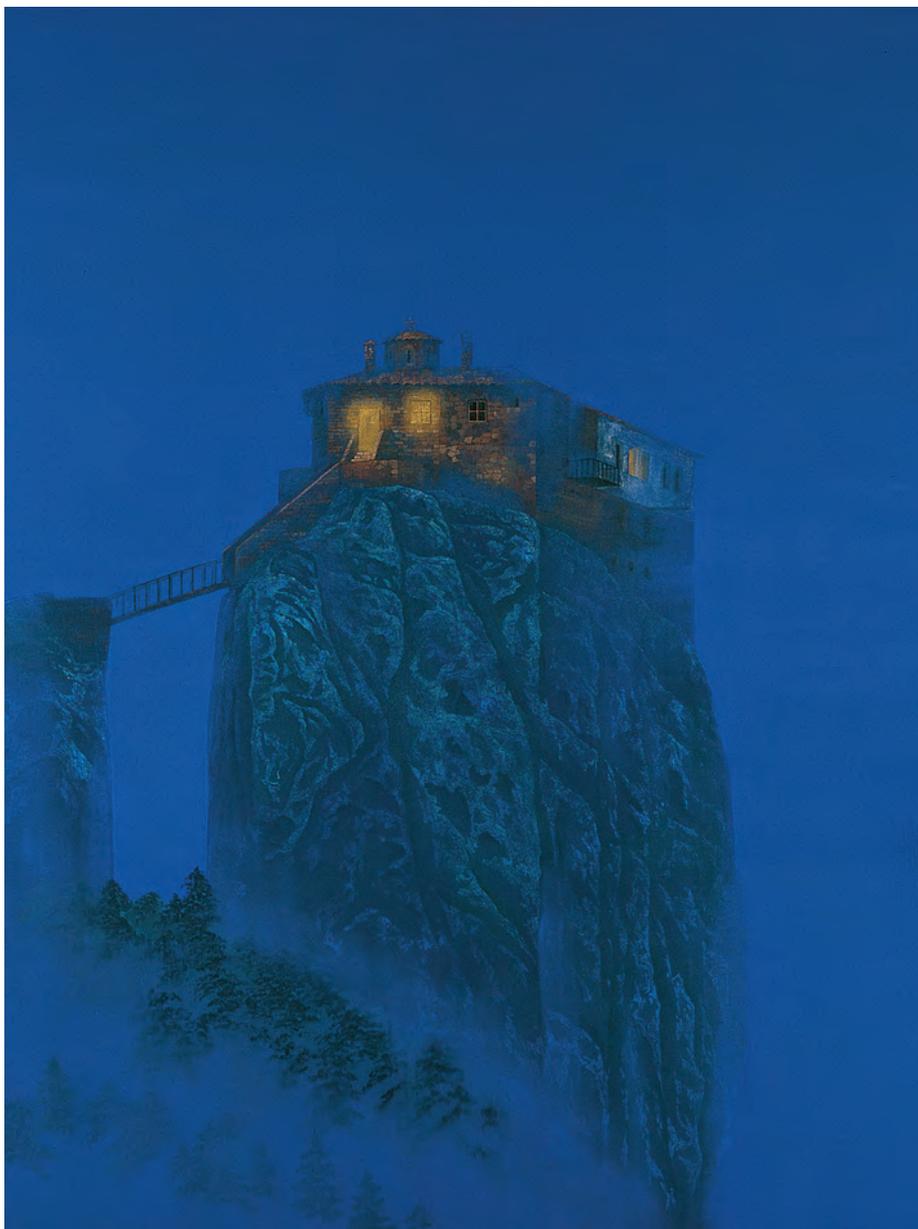
「聞く耳をもって努力すること」、これは師・池田遙邨先生の教えですが、私は師と出会ってからこの言葉を心の真ん中に置き、何より大事なことは、素直な気持ちと真っ直ぐな姿勢を守って懸命に努力すれば道は必ず開けると信じて、つい易きに流れそうになる自分の人生の礎として歩んで参りました。

このたび、大阪芸術大学のご厚意により、自身の画業を振り返る作品を誌上発表する運びとなりました。今回は、去年出版助成にて紹介した作品達から、厳選したものを掲載いたしました。この50年、私なりの歩みの一端をご高覧いただければ幸いに存じます。果てしない日本画の道の、今はまだ夢の途中であると心に銘じて今後も精進して参ります。

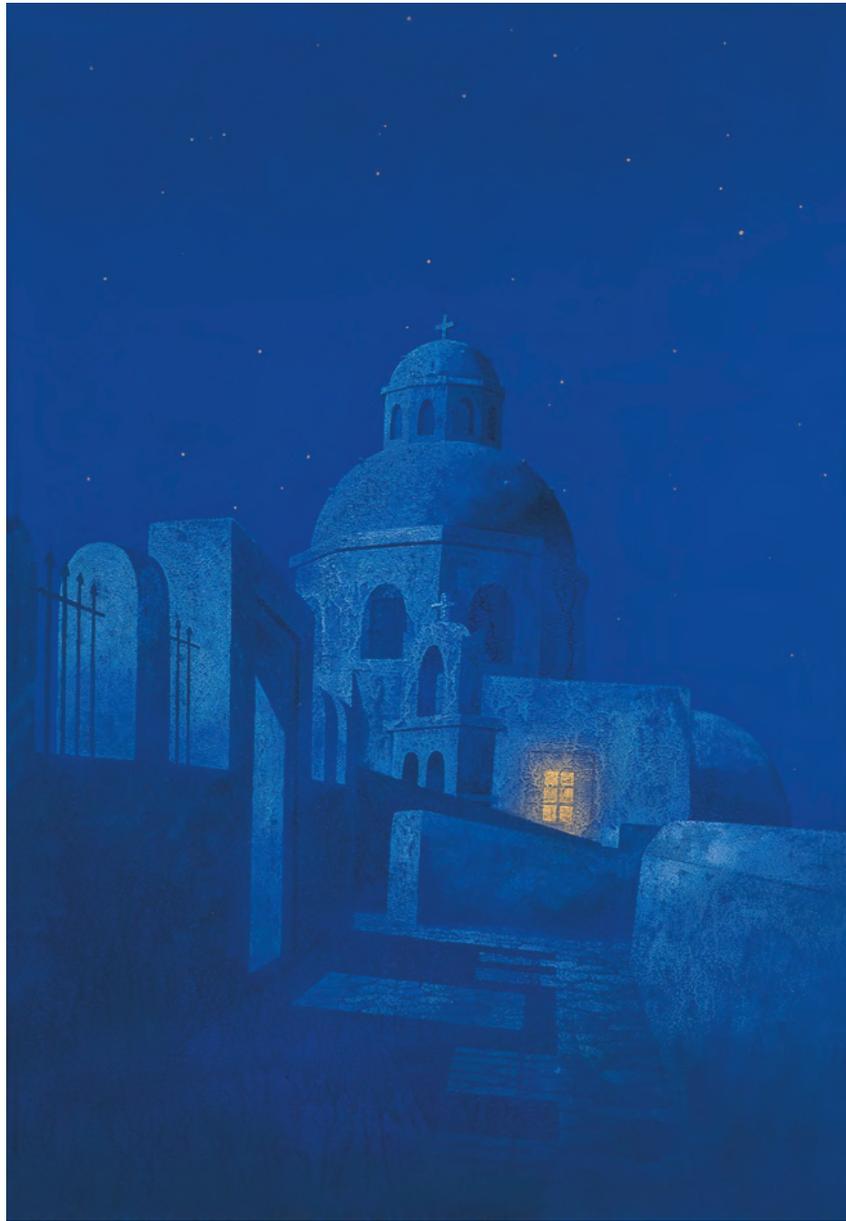




35 《宙》
175.0×225.0cm



34 《灯》
225.0×170.0cm



69 《灯》
116.7×80.3cm



31 《歷》
166.0×225.0cm



24 《ティラの町》
225.0×173.0cm





249 《耀く夜》
170.0×450.0cm





43 《光》
190.0×190.0cm



256 《耀》
170.0×320.0cm



140 《円月島暮色》
89.4×130.3cm

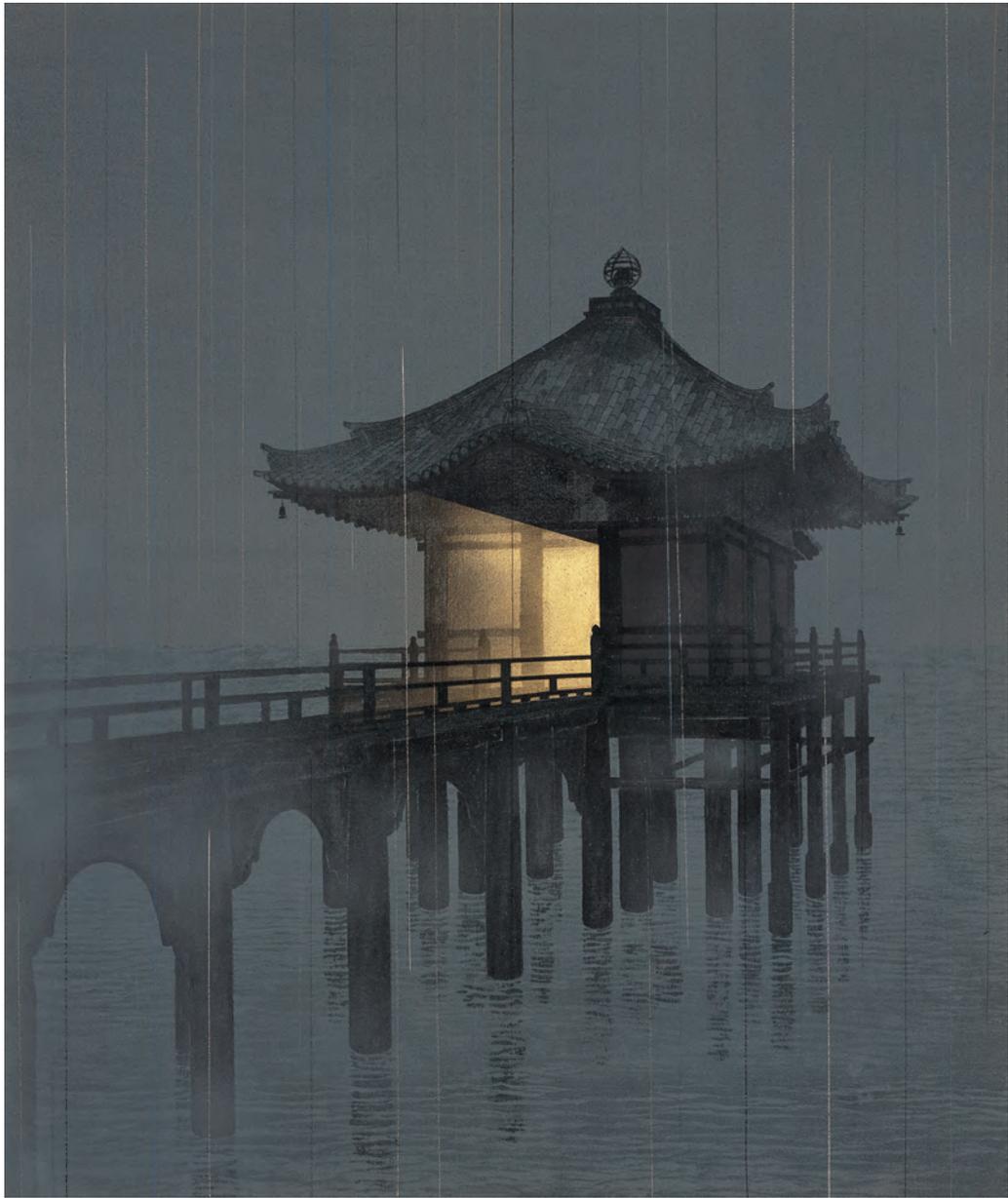




81 《净瑠璃寺暮色》
53.0×72.7cm



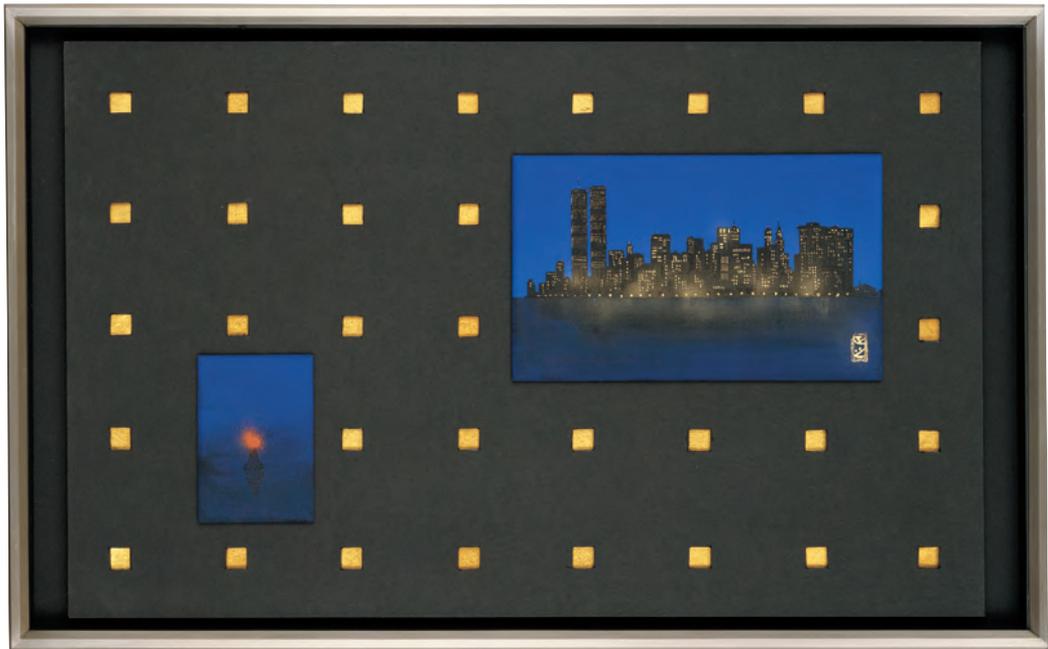
280 《春風》
145.5×97.0cm



77 《驟雨》
72.7×60.6cm



284 《紅白梅》



293 《マンハッタン》



《戌(伏見人形)》
平成6(1994)年



《亥(伏見人形)》
平成7(1995)年



《子(伏見人形)》
平成8(1996)年



《丑(伏見人形)》
平成9(1997)年



《寅(張り子)》
平成10(1998)年



《卯(のごみ人形)》
平成11(1999)年



《辰(伏見人形)》
平成12(2000)年



《巳(伏見人形)》
平成13(2001)年



《午(伏見人形)》
平成14(2002)年



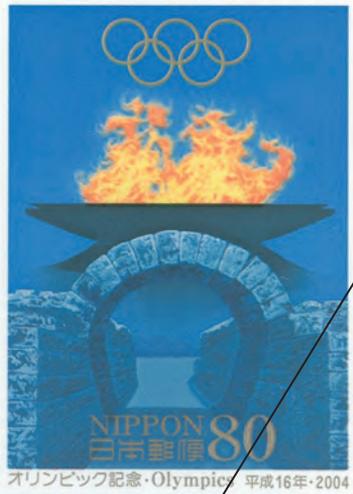
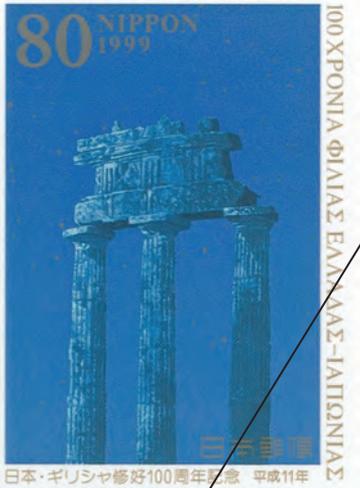
《未(伏見人形)》
平成15(2003)年



《申(伏見人形)》
平成16(2004)年



《酉(伏見人形)》
平成17(2005)年



記念切手

